

島根県在宅保健師等の会「ぼたんの会」における 災害支援活動について

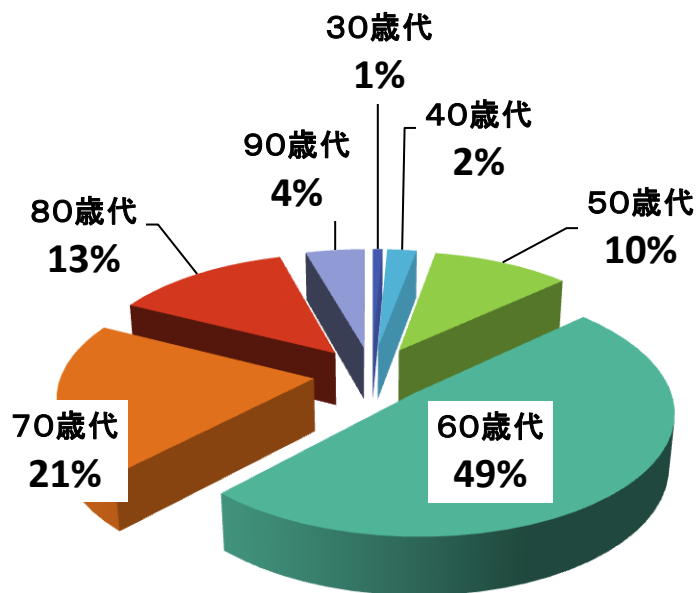
平成29年2月3日

島根県在宅保健師等の会「ぼたんの会」

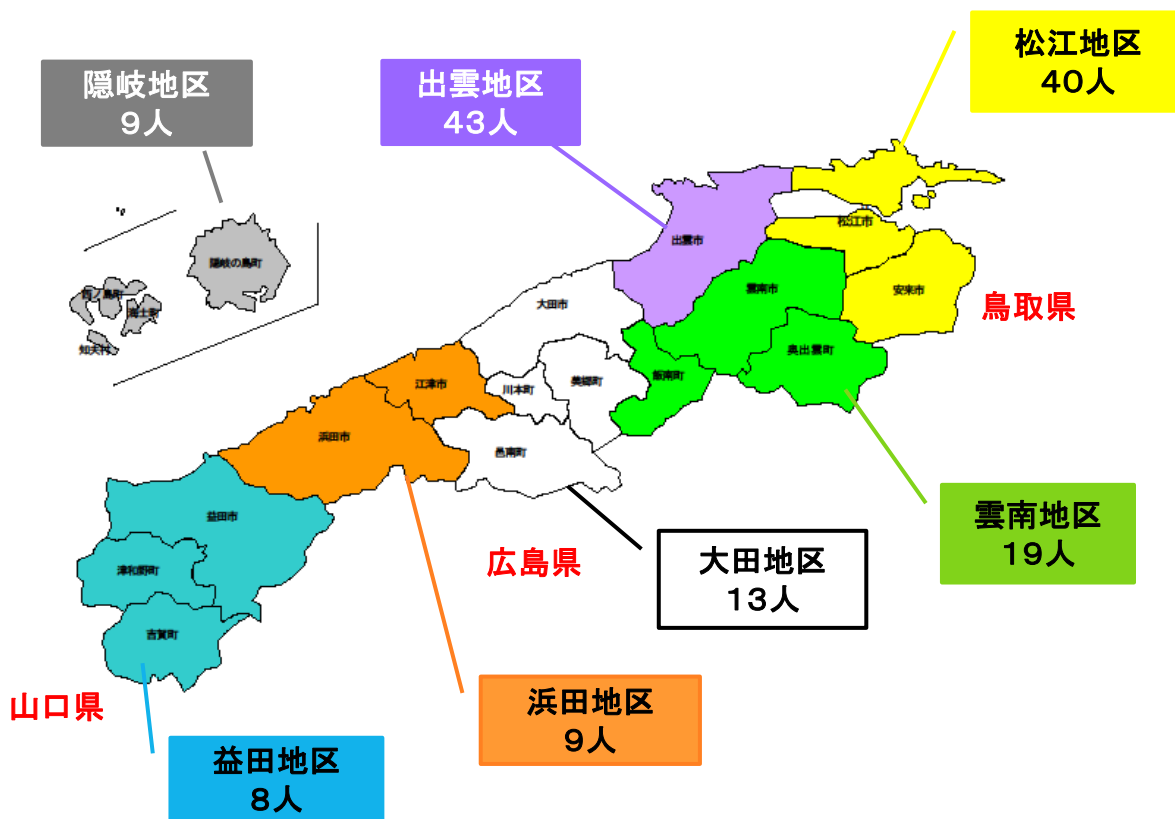
島根県在宅保健師等の会「ぼたんの会」

会員約140名が、県内7地区において住民に寄り添いながら各地区の特性を活かした活動を展開しています

会員の年齢構成



職種別割合
保健師 93%・看護師 5%
助産師 2%



「ぼたんの会」 活動内容

全体の主な活動

- ❁ 総会・役員会の開催
- ❁ 「ぼたんの会」作成の紙芝居を活用した認知症啓発活動(平成26年度～)
- ❁ 会報の発行(年1回)
- ❁ 健康づくりイベント(市町村等が行うイベント等)への協力
- ❁ 健康長寿しまねへの参画(県、各圏域での推進会議への出席、キャンペーン等への協力)
- ❁ 県防災訓練への参加等
平成25年1月 県と「災害時における協力に関する協定」を締結



認知症予防 紙芝居上演



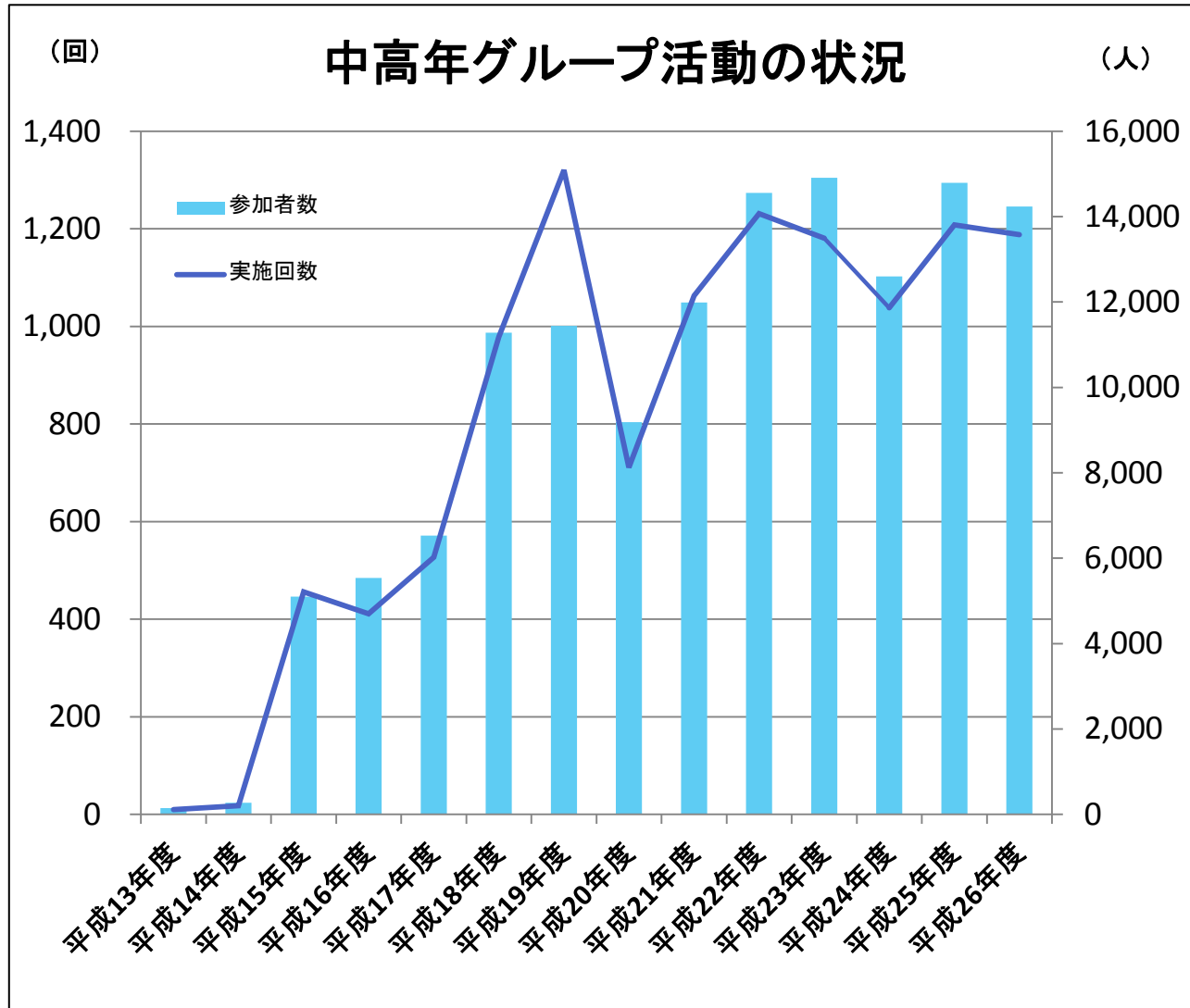
「災害時における協力に関する協定」調印式
左から永瀬前会長、溝口知事、木村会長

「ぼたんの会」 活動内容

各地区における主な活動

- ❁ 総会、研修会、地区集会の開催
- ❁ ゴムバンド体操等を取り入れた運動教室
- ❁ 生活習慣病予防・認知症予防・介護予防等の健康教室
- ❁ 健康劇「ぼたん座」によるメタボ予防・認知症予防等の啓発活動
- ❁ 生きがいづくり活動（ミニデイサービス、サロン活動等）
- ❁ 独居高齢者、精神保健等の訪問相談活動
- ❁ 他団体への支援
（公民館活動、難病患者・家族会、認知症家族会、乳がん予防活動等）

「ぼたんの会」地区活動状況



中高年グループ活動

- ・ゴムバンド体操
- ・健康劇の上演
- ・サロン活動
- ・健康教室
- ・健康体操教室
- ・母子グループ支援活動等

平成21年度以降、年間の実施回数は1,000回を超え、参加者も12,000人を超えています。

平成13年度から14年間の実施回数は11,000回を超え、参加者は13万人にのぼります。

活動状況



浜田地区 ポールウォーキング教室



浜田地区 体操教室



松江地区 健康劇「ほたん座」公演
テーマ:メタボ予防



大田地区 子育てサークル活動



活動状況



隠岐地区 難病支援(バラ園でのお茶会)



雲南地区 自彊術



出雲地区 健康劇「ぼたん座」公演
テーマ:尿漏予防



益田地区 ゴムバンド体操教室

災害支援活動

経緯

平成23年度

- ・平成23年3月11日に発生した東日本大震災を受け、「ぼたんの会」総会において募金を実施

平成24年度

- ・「ぼたんの会」総会において、会の活動として災害支援に取り組むことを提案する
- ・国保連合会職員研修（宮城県国保連合会、島根県総務部消防防災課を講師とした災害対応研修会）に「ぼたんの会」会員が参加し、事業化に向けて検討を始める
- ・平成24年12月 島根県社会福祉協議会が設置する「島根県災害ボランティアバンク」に登録
- ・島根県から、災害時の協力に関する協定締結の依頼がある
- ・平成25年1月、島根県と「災害時における協力に関する協定」を締結

災害支援活動

災害時における協力に関する協定

- ①避難所等における健康相談、体温・血圧測定の実施(可能な範囲で実施)
 - ・水分摂取や健康体操などの指導
 - ・健康や不安に対する相談
 - ・感染症予防のための手洗い、換気などの保健指導
- ②県内市町村が避難所等を開設し、保健師等の応援が必要な場合に県を通じて支援要請

災害ボランティアバンク

- ①災害時 避難所生活が長期化した場合の住民の健康管理等
- ②県内外で発生した災害に対する支援
- ③県社会福祉協議会ボランティアバンクからメールにより支援要請

島根県災害時公衆衛生活動マニュアル

「ぼたんの会」災害支援方針

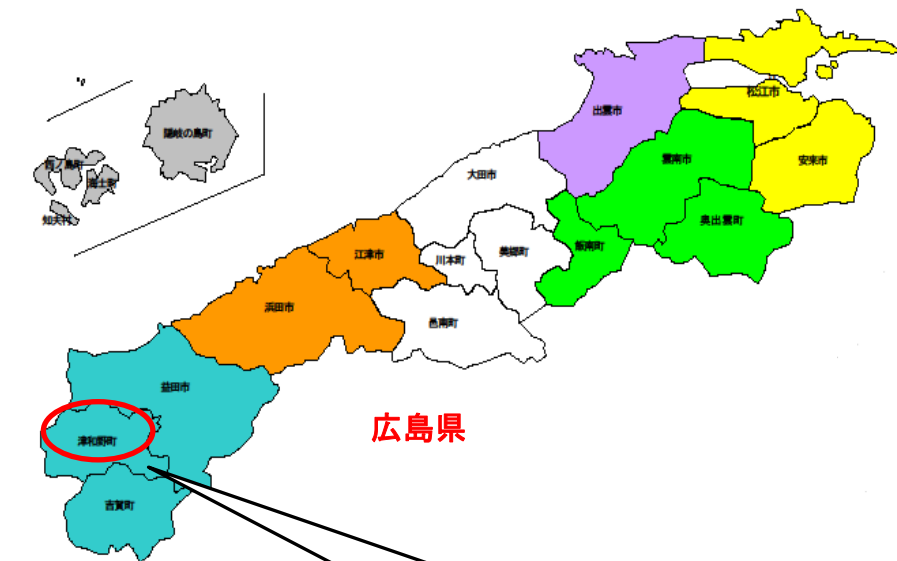
- 適切な判断基準に基づく支援
 - ・島根県内で発生した災害
 - ・長期にわたる避難所住民の健康管理(緊急時は行政)
- 行政等との連携に基づく支援
 - ・県、市町村との連携
 - ・県社会福祉協議会(災害ボランティアバンク)との連携

- ・DMAT関係マニュアル
(県医療政策課)
- ・公衆衛生活動(行政保健師等)
マニュアル
(県健康推進課)

災害支援活動

- 県総合防災訓練等の参加・参観（主催：県防災危機管理課）
 - ・平成25年度 出雲市斐伊川河川敷（出雲地区会員 1名）
 - ・平成26年度 大田市運動公園（大田地区会員 3名）
 - ・平成27年度 益田市高津川河川敷（益田地区会員 1名）
 - ・平成28年度 雲南市斐伊川河川敷（雲南地区会員 1名）
- 防災関係の研修会・講演会等への参加
- 県健康推進課との連携・情報共有

津和野町豪雨災害支援活動



山口県

広島県

津和野町

人口 7,898人
世帯数 3,665世帯
(平成25年10月1日現在)



名賀地区

*人口: 104人
*世帯: 45世帯

津和野町豪雨災害(平成25年7月28日)

- ・平成25年7月28日(日)未明から降り始めた雨は、1時間あたりの雨量が91.5ミリ、1日の観測雨量が381ミリとなるなど観測史上最高を記録
- ・町は7月28日午前5時30分に災害対策本部を設置。各地区へ避難勧告を発令
- ・同日17時30分に解除となるまでに、16地区、1,859世帯、4,165人が避難する事態となる

災害後の被災者の健康ニーズ (津和野町豪雨災害)

災害発生 当初

- ストレスによる血圧上昇、不眠、不安等で安定剤、眠剤の希望者多い
- 片づけが気になり、受診は後回し
- 避難所生活による腰痛、体の痛み
- ゴミの収集、トイレの汲み取りの要望
- 雨への恐怖・不安

避難所生活 中心

- ライフステージや口腔機能状態、疾患に応じた食事内容
- 連日の暑さと自宅等の片づけによる疲労感
- 避難所等での飲酒量の増加
- 暑さによる脱水や熱中症、食中毒、感染症の恐れ
- 雨への恐怖・不安

自宅等の 生活中心

- 雨への恐怖・不安
- 新しい土地での生活への不安
- ライフラインの早期復旧
- 農地等の喪失による経済的不安

避難所における支援活動状況

月 日	内 容	「ぼたんの会」支援
7月28日	豪雨災害発生	
7月31日	県社協ボランティアバンクから「ぼたんの会」へ支援要請	
8月1日	町民センターに避難所設置 避難者 16名(高齢者) 町保健師2名は、血圧測定、健康相談を実施	1名 (9:30～17:30)
	<ul style="list-style-type: none"> ・町保健師に、気にかかる避難者情報を聞き、「ぼたんの会」としてできることを伝える ・被災したときの状況、不安に思っていること、今後について、避難者一人ひとりに聴く。軽体操、ゲーム等を行う 	
8月2日	避難所 11名(5名は医療機関受診)	1名 (9:00～18:30)
	<ul style="list-style-type: none"> ・ストレッチ(特に下肢)、軽ゲーム、脳トレを行う ・気分が沈みがちな高齢者に話を聴く 	
	18:00頃から運動指導士がストレッチを行う	

避難所における支援活動状況

月 日	内 容	「ぼたんの会」支援
8月3日	避難所 10名（雰囲気的には落ち着いている様子） ・ストレッチ、軽ゲーム、脳トレを行う	2名 （9:00～18:00）
8月4日～ 9日	保健所保健師が交替で支援に入る	—
8月10日	「ぼたんの会」としては支援に入らず 避難所 4名（午後、片付けの終わった家に帰る）	—
8月12日	町営住宅等への入居が決まり、避難所閉鎖 災害ボランティア支援終了	1名 （9:00～18:00）

災害支援活動

延べ4日間の災害支援は、健康相談に始まった。被災した人々の傍らに座り、災害が起こった時の状況や、それに伴う心理状態、不安なこと、体調の変化、今後の生活の思い等聴かせていただいた。とにかく、受容的に受け止めようと臨んだ。体調の変化では、不眠の訴えがよく聞かれた。また、雨への恐怖・不安を口々に出していた。

その中で、1事例について述べる。

畳にかしこまって、伏し目がちに、不安そうな表情の独居の高齢女性のことが気にかかっていた。今回の災害で家屋は全壊し、先祖から受継いだ田畑も流された。今後の生活について住む場所をはじめ、どうしていけばいいのか不安いっぱいの様子である。時間をかけて十分に話を聞く必要を感じた。できるだけ時間の合間に声をかけた。話の内容は、ほぼ同じであったが、じっくり耳を傾けた。落ち着いて見えるものの時に悲しそうで、つらそうな表情である。

「つらいですね。一緒に考えていきましょうね」と伝え失礼した。3日間、つらい思いや、決心のつかない苦しさにつき合った。

3日間のかかわりであったが、1週間後に面接した時には、すっかり落ち着いていて「息子がいる〇〇県に行くことに決めたんです」と伝えてきた。ほっとした表情が印象的であった。

振り返ってみると、現場の保健師たちは、他の避難所の健康相談や家庭訪問に追われる中、「ぼたんの会」として、終日避難所に詰めることができたことで、健康相談を実施し、役割の1つを担うことができた。

支援活動を終えて

状 況

支援者 「ぼたんの会」益田地区会員 5名

稼働日 8月1日～8月12日の間で4日（災害発生後4日目～15日目）

時 間 実働9時～18時前後（規定9時～15時）

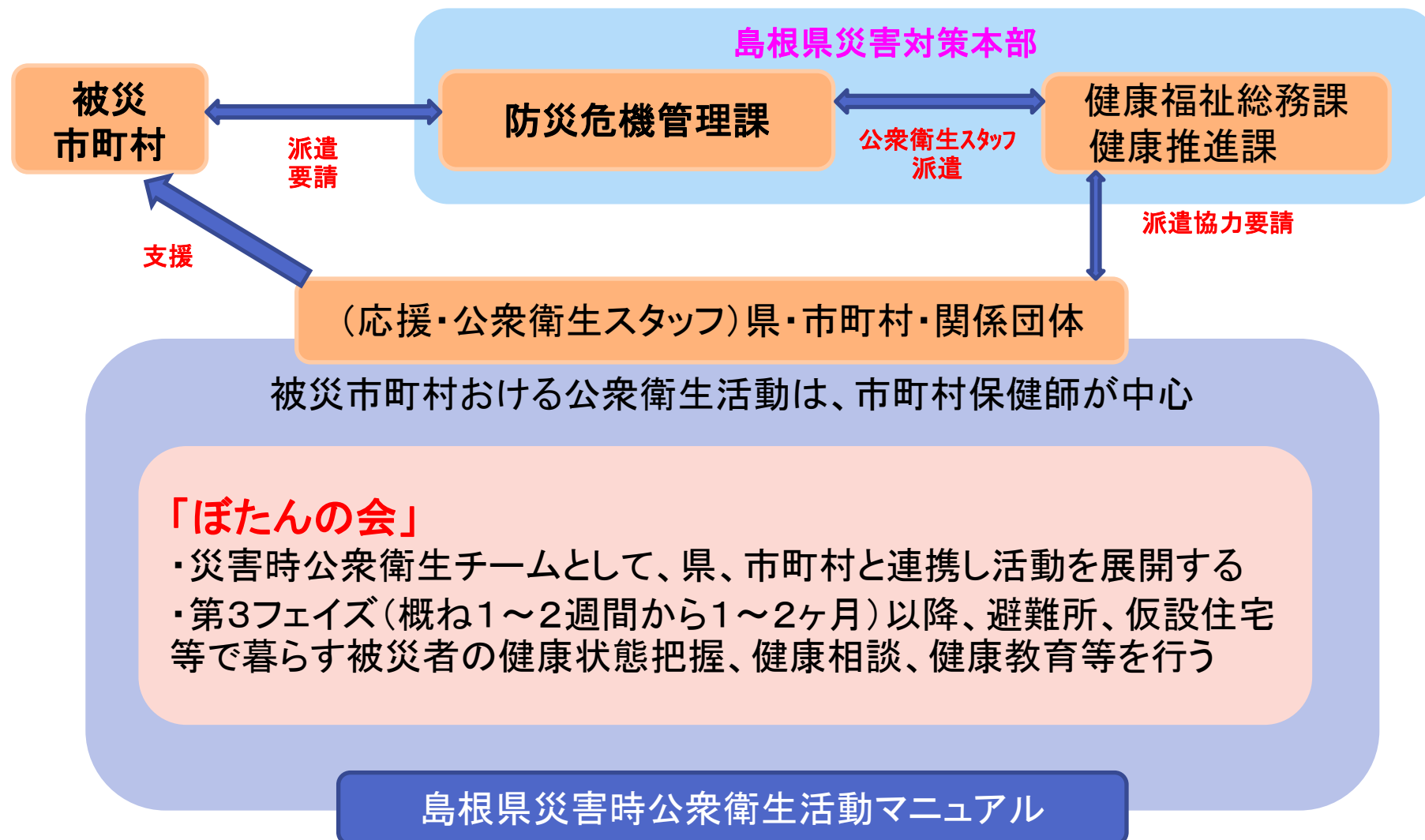
課 題

- ・県、津和野町に「ぼたんの会」が支援に入ることが伝わっていなかった
- ・現場の保健師との連携が不十分で、指示もなく、何をすればいいのか戸惑った
- ・避難所設置以降、どのタイミングで支援に入るか

今後に向けて

- ・県及び県社会福祉協議会との連携の強化
- ・行政の公衆衛生支援活動体制（**島根県災害時公衆衛生活動マニュアル**）の基での支援
⇒県防災危機管理課、健康推進課（保健師主管課）からの要請に基づく支援
- ・「ぼたんの会」災害支援マニュアルの作成
- ・県防災訓練、研修会等への参加

災害時応援公衆衛生スタッフ要請フローチャート





ありがとうございました！